

「東日本大震災」災害支援だより

第2号 2011年5月25日発行

全国移動ネット災害支援の会 〒156-0055 東京都世田谷区船橋1-1-2 山崎ビル204号

◆問合せ先◆
全国移動ネット
TEL [03-3706-0626](tel:03-3706-0626)
E-Mail
info@zenkoku-ido.net

東日本大震災発生から2か月が過ぎましたが、あらためて亡くなった方々、被災された方々に、お悔やみとお見舞いを申し上げます。「支援だより2号」では、被災地における新たな動き、会員および関係者による活動報告、省庁の動きなどの情報を掲載いたします。どうぞご覧ください。

巻頭言

災害支援の会プロジェクト 代表・柿久保浩次

震災から2か月たっても避難者の過酷な生活状況が大きく改善されたようには思えないが、阪神大震災や新潟地震などで被災者と一緒に考え、もがいた人たちが現地に入っている。これからどうすれば良いのか見えないものを少しでも見えるように、少しでも状況が変わるようにと考える人たちがいることに元気づけられる。

●活動報告

1. 概要報告(2011年4月下旬～5月初旬)

●「仙台市の拠点開設と動き」(柿久保・鬼塚)

4月末から菅原さんの尽力で仙台市泉区に6名くらい宿泊可能な拠点(ミキ自工から借用)を設けた。柿久保さんの関西STSチームがこの拠点用に車両(セレナ)1台を持ち込み、微力ではあるが仙台市周辺への支援活動が可能となった。すでに、この拠点を使って、沿岸部の状況把握、石巻市移送レラの支援、仙台たすけっとの依頼対応などの活動を始めている。また、仙台のつなプロ(被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト)や

JCNや他のプロジェクト等からの情報収集も始めた。日本財団の助成100万円と関係者からの募金を使って、今後、現地へ入る方々を募りサポートすることを進める。

◆全国移動ネットの仙台市泉区の拠点

住所: 〒981-3117 仙台市泉区市名坂字新道9-1

◆災害支援専用携帯電話(菅原)

080-2381-1560

2. 仙台から---報告、お願い

●「仙台から見えてくること」(移動サービスネットワークみやぎ/菅原ふじ子)

◆つなプロとのやりとりから

仙台周辺における被災地での移動のニーズがなかなかつかみにくい状況にあります。潜在的なニーズが顕在化してくるのはこれからと思っています。一足早く石巻入りした北海道の「あてんど&ホップ障害者地域生活支援センター」の場合、全国移動ネットの仲間が人手不足の応援のために仙台拠点から石巻へ向かっています。また、被災障がい者支援を行っている「ゆめ風基金」の仙台拠

点である「CIL たすけっと」は被災者に物資等を届けながらニーズの把握に努めており、「移動に関するニーズが出始めている」と話しています。

事前に被災地等の具体的な状況がわかれば、確実に移動支援を行うことができます。そして移動支援の活動が口コミで広がっていくだろうと思います。情報の共有を行いながら、移動支援のコーディネートをやっていきますので、よろしくお願い致します。(5月7日)

3. 大阪から仙台へ---福祉車両2台を届けて

●「概要報告」(ハンディキャブを走らせる会/鬼塚正徳)

◆参加メンバー：柿久保、橋本、奥田、遠藤、橋本(強)、鬼塚

◆4月19日(東京→仙台市)：東北自動車道路は問題なく通行可能、15時到着。

◆4月20日(仙台の拠点へ)：菅原さんが確保してくれた仙台市の拠点に、山口県から来た介護タクシーの橋本(強)さん、大阪から来た柿久保さん、遠藤さん、奥田さん、橋本さん集合。

・石巻に伊藤(寿)さんを訪問、石巻の状況を伺って、ホップの拠点を案内してもらう。

◆4月21日(山元町へ)：菅原さんの案内で、ささえ

愛山元・中村さんを訪問。

・午後、仙台市内のCIL たすけっとを訪問、被災地の障がい者の送迎サービスに関して伺う。

・夕方、多賀城市の避難場所へ。移動サービスのニーズについて責任者にお伺いした。「避難者に関する医療面は近隣の病院と提携。救急の場合は、救急車を呼ぶかタクシーを使って対応。それ以外は(避難所から自立してもらう立場から)、自主性を促す方向」と説明された。

・夜、イーザーライダー・長谷川氏とミーティング。

4. 被災地・避難所で、見て・感じたこと

●「陸前高田から—現状を目の当たりにして」(埼玉県移送サービスネットワーク/笹沼和利)

4月30日、陸前高田に入って地元のタクシーを調べました。まずタクシーを止めて、陸前高田のタクシー会社か確認。ほとんどのタクシーは(一関など)外からのタクシーでした。タクシーを使っているのは報道陣や帰省者のようです。その後、陸前高田のタクシー会社の話を聞きましたが、壊滅状態で運行していない様子。また、隣の大船渡のタクシー会社も海に近いところにタクシー会社があったということで、大きな被害が出ていると聞きました。そのほか、タクシー関係の会社に電話しましたが、どこも音信普通。地元の人「携帯電話を使っているのでは?」と話していました。

「地元のタクシーが孤立している集落を“乗り合い”などで回してもらえないか」と考えていましたが、難しそうです。たまたま運転代行をしていた人に会ったので「やってみない?」と話を向けました。その人はすべて

を失って現在は避難所暮らしとのことでしたが、2種免許を持った仲間がいるらしく、「考えさせてほしい」と言われました。

その後市役所に向かい、担当者に「交通を“緊急雇用”で担ってもらえないか」と話しましたが、陸前高田市は市役所職員70名が亡くなり、市庁舎も壊滅状態とのこと。仮のプレハブで業務を遂行しているらしく、それ以上の無理は言えませんでした。市役所への専門職員の派遣も必要なのでは?と痛感しています。同時に「いわてNPO-NET サポート」が地域の自立の支援を行政と協働で始めたので、連携していこうと考えました。

また、「被災地は車庫証明が取れず、軽自動車しか買えない」と聞きました。たまたま、陸前高田で山の中に出てきた臨時の中古車販売店を見ましたが、軽ばかりで値段も高かったです。

●「わたしたちにできること」(横浜移動サービス協議会/山野上啓子)

短期間でしたが、石巻では避難所や福祉施設を回り、地元の方たちのお話を伺いました。聞いて回った中で、短期間の間に浸透したホップさんの浸透は素晴らしいと実感。役所関係者も病院関係者も手一杯の中で、“移動”の部分を安心して任せられることをありがたがっていました。そして、すでにニーズがホップさんの活動量をオーバーしていると感じました。

一方、避難所の前でたき火にあたっている人たちの中には、運転のできる人、自家用車を持ち出せた人がいらっしやいました。多くの嘆きも聞きましたが、東北人の力強さと明るさ、地域力の強さも見て「被災者は弱者で

はない」と感じます。

では、被災していない私たちのやるべきことは何でしょう? 弱小の当協議会に何ができるかわかりませんが、立ち上がろうとしている皆さんのお手伝いできればと思っています。

交通手段を奪われてほとんどの人が移動困難者ですから、移動サービスの出番は山積です。通院だけでなく、日常のお買い物やお出かけを促して、復興へのモチベーションアップを目指しましょう。そして私たちは、せつせと軍資金を集めて活動者の謝金を確保しましょう(^_^)/~ (5月8日)

